9月の行事報告 *September* 壮年会法座「御文章を味わう解説2回目報告」

「猟すなどり章」（一帖第三通）　**9月11日（日）午後3時**

今回の法座【ご文章を味わう】は、「猟すなどり章（一帖三通）」の解説でした。これは、猟（りょう:鳥獣の狩猟）、すなどり（漁:魚介の捕獲）など、他の命を奪うことで生計を立てている人たちにあてたお手紙ですが、その本意は、たとえどのような仕事で暮らしを立てていようとも、我執（自分中心の考え）にとらわれ、真に大切なものを見失い、勝負損得にこだわり・迷い苦しみ・そこから抜け出せないでいる私たちに、阿弥陀さまからいただいた安心（揺らぐことのない安らかな心）に基づいた生き方、「人生の中心に何を据えるか」を問うものです。

ご住職は、やはり蓮如上人の「仏法を主（あるじ）とし、世間を客人（まろうど）とせよ」のご文章を引いて、自分が頼りにしている「ものさし（世間）」は、自分の都合でいくらでも変わるものだが、阿弥陀さまの「ものさし（仏法）」を頼りにすれば、「真実」の生き方にふれることができると話されました。

さらに、近江商人の「三方よし（売り手によし、買い手によし、世間によし）」を菩薩行ととらえた伊藤忠商事創業者、伊藤忠兵衛の「商売は菩薩の業、商売道の尊さは、売り買い何れをも益し、世の不足をうずめ、御仏の心にかなうもの」や、先ごろ亡くなった京セラ創業者、稲盛和夫の「利他とは、もうけさせていただく心」について、「利他には（阿弥陀さまの）他力が働いている。自力ではない、他力のはたらきによって、いま（の繁栄）がある。そのこと（他力のはたらき）に対する報恩感謝の行い、それが利他のはたらきである」という前住職のコメントが、私の胸の奥にストンと落ちました。

また、この日は壮年会会員の児島佳守さんから、「浄土と称名と中原寺」（前住職による『教行信証』講座のマクロ総括）のプリントをいただきました。

（原山 建郎 記）

11月の行事報告 *November* 壮年会法座「御文章を味わう解説3回目報告」

「睡眠章」（一帖第六通）**11月5日（日）午後3時半**

連如上人御文章より「睡眠章」をご講義いただきました。「睡眠」は「すいみん」とは読まずに、「すいめん」と読む。この文章は連如上人の娘、見玉尼（けんぎょくに）の看病をしている人々に向けて書かれたものである。

死が目の前にあるのも知らず、世間の誘惑に惑わされ、日々の楽しみにうつつを抜かしていては、いのちを見つめることなくして過ぎることとなる。今求めるべきものをしっかりと知り、それを求める生き方をしなければならない。

人生は無常でありその中でご縁により生かされている。「生のみが吾等にあらず、死もまた吾等なり」と清沢満之（きよさわまんし）も述べている。長生きが人生の目的なのか、いのちの問題の解決が大事なのかをよくよく考えて、限りある人生を生きていただきたい。いのちの問題の解決は世間ではできない。人間の体は器（うつわ）である。

自分の計らいにないものを受け取る機能を持っている。いのちの問題は各々自身の問題であり、死を見つめることにより「生きている」意味を問うことができるともいえる。

死の意味ということでは、柳田国男と稲森和夫の文章を紹介されましたが、小生としては真宗大谷派で暁烏敏（あけがらすはや）の教えを引き継ぎ、現代の闇（理性至上主義）に厳しく迫る池田勇諦（いけだゆうたい）師の、「死を忘れると生活は浮く、死を怖れると生活は沈む、死を明らかにすると生活は輝く」ということばを有難くいただきました。

（越田 修二郎 記）

Chibaso News

「千葉組研修会」（会費無料）

- ◆日 時：**令和5年1月25日（水）　13時半より**
- ◆場所：**千葉市民会館**（JR東千葉駅東口より徒歩7分）
- ◆講師：**西原大地**（西方寺副住職）

お知らせ

令和5年度「壮年会年次総会」・「壮年会法座」

- ◆**令和 5 年 1 月 2 8 日（土）14時より**

大事な年次総会です、皆様の参加をお待ちしております。

＊ **「教行信証」を学んで自分なりに解釈し「浄土と称名と中原寺」にまとめてみました。先日、壮年会法座にて発表しました資料を添付させていただきます。目を通して頂ければ幸いです。**（児島 佳守）

編集後記（壮年会だより：令和4年12月「秋冬号」会報）

“コロナ禍はある組織の秘密の活動の結果”だとか“ワクチンにはマイクロチップが埋め込まれている”などというデマがあるそうです。お釈迦様は「最上の真理を見ないで百年生きるよりも、最上の真理を見て1日生きることのほうがすぐれている」『真理のことば』とおっしゃいました。その真理への道はお寺にあるとおもいます。

中原寺仏教壮年会　　○編集委員：河合 功・原山 建郎・福島 秀昭（レイアウト）　○印刷・送付：中原寺

Cyugenji Sounen-kai Dayori

壮年会だより

令和4年12月「秋冬号」　中原寺仏教壮年会だより Vol. 34

今年は、対外的にはロシアのウクライナ侵攻や地球人口80億人到達、国内的には安倍晋三氏暗殺とそれに伴う「旧統一教会・自民党の関係」が暴露されました。安倍氏が殺されるまでこの愚行が表沙汰にならなかったのは、マスコミが彼を忖度したからでしょうか。お釈迦様はおっしゃいました。

「愚かな者は、悪いことを行っても、その報いの現れないあいだは、それを蜜のようにおもいなす。しかしその罪の報いの現れたときには、苦悩を受ける」『真理のことば』と。

【住・職・閑・話】

「いとしのエリー」や「勝手にシンドバット」などの楽曲で知られ、長きにわたり幅広い年代から支持を受けているサザンオールスターズ。そのサザンオールスターズのボーカル桑田佳祐さんとキーボード担当の原由子さんは同じ大学の先輩後輩というかたちで出会い、デビューして間もなく交際を始め、のちに結婚されます。桑田さんは原さんについて、こんな話をされています。

“ほとんどの女性は、俺が何でもない小石を拾って渡しても、キョトンとするだけだと思うんです。でも彼女は違うんです。俺がこうやって小石を渡す。すると彼女は、桑田さんがくれたものなら、何か絶対に意味がある。そう思って、小石を大切に持ってくれる人なんですね。世の中に多くの女性がいても、小石を大切に持っていてくれるのは彼女だけなんです”と説明してくれました。

ダイヤモンドなどの宝石ならまだしも、どこにでも落ちている小石をもらって喜ぶ人はなかなかいないと思います。それは何の変哲もない小石にまったく「価値」を感じられないからです。しかし原さんは、ほかの人とは違う視点で小石を見ていくことができるのでしょう。

価値のあるものをもらったから喜びを感じるのではなく、大切な人からもらったという意味を大事にし、その小石を愛おしく思える感性をもつ原さんの姿に、桑田さんは惹かれ、生涯を共にしたいと思ったのでしょう。

価値とは、私が見出せるかどうかの問題であって、有るか無いかではないのです。いのちの尊さということも同じでしょう。

とかく生産性や効率性、目に見える結果が求められる現代において互いに比較しあい、数字によって評価をしあう社会は人を疲弊させます。自らの価値を高めようと努力、研鑽することは大事ですが、そのことばかりを重視した生き方は、自らの価値観によって自分自身を苦しめることになります。

超日月光この身には
念仏三昧をしへしむ
十方の如来は衆生を
一子のごとく憐念す
（浄土和讃）

親鸞聖人はご和讃の中で「阿弥陀様はこの私のいのちを一人子のようにあわれみくださり、そのままに抱きとってくださる。

そして南無阿弥陀仏のお念仏となって私の人生をご一緒してくださる」とお示しくださいました。

子どもの運動会のお遊戯を見て、上手に踊れなかったとしても、親は我が子の演技に感動し、大きな拍手をおくります。他人から見ればなんとも思わなくとも、親は我が子がその場に立つまで一生懸命に練習し、そのうえで本番を迎えた姿や思いを知っているからこそ、どんなことがあっても大丈夫、私がついているよと、温かく見守り続けるのです。人生において、私の物語、ストーリー全部ご覧になって「大丈夫よ」と言ってくださるかたに出会っていけるか。

阿弥陀さまは私のすべてをご覧になったうえで「大丈夫よ、決してあなたを独りにはしない」と言ってくださる仏さまです。この比較や評価をしない仏さまと歩む人生が私に開かれていくのがお念仏のみ教えです。

ワンポイント解説

■非僧非俗（ひそうひぞく）とは?

念仏弾圧で、親鸞聖人は師・法然聖人らとともに処罰され、僧籍を剥奪された。その後、親鸞は自ら“愚禿（ぐとく）親鸞”と名のる。『経行信証』には、「しかればすでに僧に非（あら）ず、俗に非ず、この故に禿（とく）の字もって姓とす」とある。非僧非俗とは官許（かんきょ）としての僧を拒否しながらも俗を超越した親鸞の一つの思想的態度である。（参考:「学研/浄土の本」）